

## [平成28年度 施策評価シート] 南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標	2. 地域に根差した産業を育成し安定した雇用を創出する					
施策	(1) 地域産業の振興					
施策の基本方向	農業や伝統工芸など地域の地場産業の支援育成による基盤強化を図るとともに、各産業の連携による地域ブランドの創出、これらを含めた歴史・文化・祭り、集落などの地域資源のブラッシュアップと有効活用による観光産業の振興など産業全体への波及効果をもたらす取組みを推進する。					
【KPI】 事業の評価を図る指標  【Do】 主な事業の実績・取組状況	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	H28年度	目標値 (H31年度) * 28年度	評価 ①順調に進行 ②一部進行捗 ③停滞―― ④――	【Do】主な事業の実績・取組状況
	・新規就農者数	3人 (H26年度)	延べ2人	延べ15人 * 延べ6人	②一部進行	・新規就農総合支援事業補助金により、新規就農者(2戸新規)に対し給付金を支給して、経営が安定するよう就農直後の所得が確保できるように支援を行った。
	・伝統工芸新規担い手数	8人 (H26年度)	延べ16人	延べ40人 * 延べ16人	①順調に進行	・琉球餅事業協同組合において後継者育成事業を行い7名の育成を行った。
	・南風原文化センター来館者数	26,554人 (H26年度)	27,749人	28,000人 * 27,132人	①順調に進行	・主な企画として、町史・写真集の発刊に合わせ「あの日・あの時写真展」、6月の戦争平和に関する企画では援護係と連携し、残された記録から特に子どもたちの戦場の記録を紹介する「戦場の子どもたち～失った命と生きのびる命～」、木造建築という特殊な個人の技や活動を通して広く沖縄の建築文化を紹介する企画展「親泊次郎の仕事展」を開催した。
	・かすり会館来館者数 ・かすり会館来館団体数	10,580人 32団体 (H26年度)	10,118人 42団体	12,000人 * 11,148人 50団体 * 39団体	②一部進行	・餅組合と連携して、町内小中学校の総合学習による体験学習、ふれあい体験教室、一般の体験教室、かすりの道ツアー、かすりの里まつり等を開催。ふるさと博覧会で、かすりの女王コンテストやかすりファッションショーを開催。平成29年1月に南風原花織が国の伝統芸能品に指定された。
	・地域農産物を含んだ学校給食の実施日数	62日/200日 (H26年度)	33日/200日	70日/200日 * 65.2日/200日	③停滞	・学校給食では、安心安全な地元産の食材を活用した。給食時間に校内放送で使用食材の紹介を行い、給食日より使用食材及び産地を表示し配布した。
関係事業一覧	【Do】事業の実績・取組状況		【Check】評価・取組の検証		【Action】取組の課題、解消に向けた今後の取組等	
①南風原町観光振興推進事業	・かすりの道活性化プロジェクト、民泊啓発推進事業、南風原地域発力強化事業、ヒーローのまちづくり事業、シマジマガイド事業を町観光協会へ委託。南風原町観光PR促進事業を実施し、観光振興に努めた。		・計画通りに事業を委託、実施することができた。		・今後も計画的に事業を進める。	
②伝統工芸振興事業	・琉球餅事業協同組合において後継者育成事業を行い7名の育成を行った。		・事業計画の通り、8ヶ月半の間で、予定していた研修を終えた。今年度は募集人数が少なく、例年より1名足りない実施となった。		・研修後は各工房で働くが離職率が高い現状がある。各工房や組合の売上を上げるために補助金を利用して販路開拓や需要拡大事業を行う。	
③南風原町6次産業化推進事業	・アグリチャレンジ普及推進事業：粉砕機の導入により外注していた粉砕委託費用の削減とメッシュスクリーンの交換で微粉砕が自社で製造可能となり、より染色効果の高い付加価値を高めた商品化をすることができた。		・アグリチャレンジ普及推進事業：主な販売先は2店舗であるが、新たな販路拡大が必要。		・加工体制は整っているため、ヘナや台湾駒繫ぎの生産体制を整えるため、植栽面積の拡大等で農家連携を行う必要がある。生産量増加や安定供給体制を確立することにより、産地化を狙い、販路拡大へつなげる。	
④食を通じた地場産業振興事業	・はえばる美瓜レシピコンテストを実施し、39点の応募があり、入賞者をはえばるふるさと博覧会で表彰。はえばる美瓜ヘチマ料理フェアでは、14店舗ではえばる美瓜を使った料理を期間限定で提供してもらった。スターフルーツの収穫体験を実施した。学校給食では、安心安全な地元産の食材を活用した。給食時間に校内放送で使用食材の紹介を行い、給食日より使用食材及び産地を表示し配布した。		・県内及び県外イベントを通して地元野菜やくだものPRができた。JAとおし地域農産物の食材を購入していますが平成28年度においては供給元のJAからその分(33日分)の供給となった。		・継続的な周知活動が必要。今後も商業施設などでヘチマレシピを継続的に紹介していきたい。 給食食数は年々増加しており地域農産物供給元のJAが大量の食材について品質を落とさず長期安定供給できる体制を維持できるかの課題がある。今後は食材品目増及び供給増についてJAとの協議を検討していく。	
⑤中小企業・小規模企業振興推進事業	・中小企業・小規模企業振興審議会を1回開催。		・町内企業の振興を図り、本町の発展を図っていくための具体的な施策の策定が必要。		・中小企業・小規模企業振興推進協議会を開催し具体的な施策づくりを行う必要がある。中小企業・小規模企業振興推進協議会及び審議会を開催していく。	
・新規就農総合支援事業	・新規就農総合支援事業補助金により、新規就農者(2戸新規・8戸継続)に対し給付金を支給して、経営が安定するよう就農直後の所得が確保できるように支援を行いました。		・新規就農者に給付金による支援を行い、農家所得の確保により農業経営の安定を図ることが出来ました。		・新規就農者の経営安定のために栽培技術の向上・新たな農地の確保・経営資金の活用等、関係機関(町役場・農業委員会・普及センター・JA等)が支援を行うことが必要。そのため、関係機関が連携して新規就農者への面談等を通して支援する取組を行う。	
・南風原文化センター事業	・主な企画として、町史・写真集の発刊に合わせ「あの日・あの時写真展」、6月の戦争平和に関する企画では援護係と連携し、残された記録から特に子どもたちの戦場の記録を紹介する「戦場の子どもたち～失った命と生きのびる命～」、木造建築という特殊な個人の技や活動を通して沖縄の建築文化を紹介する「親泊次郎の仕事展」を開催した。		・それぞれの企画は、来館者の拡充に繋がった。企画展の内容ごと、音楽会や演芸会それぞれの来館者にターゲットを絞って広報することができた。		・異なる企画展でもりピーターを増やし、来館者により広い企画に興味を広げる。 ・一度きりの企画にならないように、来館者の声を集めるようにする。 ・企画展の開催に合わせ、常設展も見学を促すようにする。 ・シリーズ化できる企画は計画を立て、各企画展を皮切りに関連事業の展開を考える。	
・後継者育成事業	・琉球餅の製作課程において一番最初の工程である「デザイン・くくり」の担い手育成のために、3年間をかけて4名の育成に取り組んだ。		・「デザイン・くくり」の研修生4名は3年間の研修を終え、個人事業主や琉球餅事業協同組合の事業の補助を行い、技術研鑽に努めている。		・歴史的に分業制が主流であったため、「デザイン・くくり」の担い手が特に少ない現状であるため、ニーズに合わせたデザイン開発や商品価値の向上のために、継続した技術者育成が必要。	
・かすり会館来館関係事業	・餅組合と連携して、町内小中学校の総合学習による体験学習(年10回)、ふれあい体験教室(町内小中学生対象:年2回)、一般の体験教室(年2回)、かすりの道ツアー(年10回)、かすりの里まつり 2日間開催。ふるさと博覧会において、かすりの女王コンテストやかすりファッションショーを開催。 ・平成29年1月に南風原花織が国の伝統芸能品に指定された。		・町内の児童・生徒には体験学習などで、よく活用されているが、観光客等の来館はまだまだ、少ない状況である。ふるさと博覧会でのかすりの女王コンテスト及びかすりファッションショーは、町民からも楽しみされており、毎回多くの方が来場されている。 ・1983年に認定された「琉球餅」に続き、浮き出た柄の美しさや多様な織りの技法が特徴の「南風原花織」も認定されたことで、町の織り文化の豊かさを示すことができた。今後も、県内外に琉球餅・南風原花織の良さを伝えていく必要がある。		・かすり会館の立地環境は大型バス等が進入しづらい場所にあるため、大量の観光客を受け入れるためには、かすりの道や観光駐車場を含めたかすり会館までの動線の検討が必要。体験学習や、実際の作業工程を見学できる施設になっているが、周知不足なので、インターネット等を活用して町内外にアピールする。体験や観光だけでなく、実際に琉球餅の購入を目的とした来館を増やせるように県外や海外にアピールしていく必要がある。	